

2019.4.23 <計1枚>

京都大学記者クラブ加盟各社 各位

立命館大学広報課

国際平和ミュージアム第123回ミニ企画展示
堂畝紘子写真展「生きて、繋いで ー被爆三世の家族写真ー」開催
会期：5月1日（水）～5月25日（土）

国際平和ミュージアムは、「被爆三世 これからの私たちは project(※)」と共催で、第123回ミニ企画展示 堂畝紘子写真展「生きて、繋いで ー被爆三世の家族写真ー」を開催いたします。

原爆投下から74年が経とうとしている今日、被爆者である祖父母から実体験を直接聞くことのできる最後の世代である私たちは、その記憶をどう受け止め、次の世代へ伝えていけば良いのでしょうか。写真家の堂畝紘子(どううね ひろこ)さんは、2015年1月から「被爆三世の家族写真」の撮影活動を開始し、これまでに広島・長崎で70組を超える家族を撮影してきました。撮影を予定していた被爆者の方が直前に亡くなることも度々あった経験から、残された時間は多くなく、今活動することが重要であるとの強い思いを胸に、広島や長崎を中心に写真展やイベントへの出展も積極的に行っています。

本展では、堂畝さんが被爆者から被爆三世(四世)までの命のつながりを撮影した10組の家族写真(約70点)と、それぞれの家族で継承されている被爆体験をパネルや冊子にして展示します。

被爆者の高齢化が進み、被爆・戦争体験を若い世代にどう継承していくかが問われる中で、核兵器、原子力、戦争、平和、命、絆などについて考える機会となることを願っています。

※被爆三世 これからの私たちは project について

被爆三世・同世代、次世代のこれからのことを考えてもらう、きっかけ作りのための非営利の平和市民活動。有志メンバーによる集団で、「被爆三世(同世代・次世代)」の視点から作品制作・展示・発表活動を行うことを目的として、広島・長崎を拠点に活動している。

<http://hibaku3sei.tiyogami.com/>

記

会 期：2019年5月1日(水)～5月25日(土)

会 場：立命館大学国際平和ミュージアム2階 常設展示室内

開館時間：9:30～16:30(入館は16:00まで)

休館日：日曜日(ただし、5月5日は開館)、5月2日(木)、5月6日(月)

見学資料費：大人400円(350円)、中高生300円(250円)、小学生200円(150円)

※()内は20名以上の団体料金

※地階受付または特別展受付で見学資料費をお支払いください。

※5月18日(国際博物館の日)は無料公開です。

主 催：被爆三世 これからの私たちは project

共 催：立命館大学国際平和ミュージアム

以上

●取材・内容についての問い合わせ先

立命館大学国際平和ミュージアム 担当：Bacon、稲田

TEL. 075-465-8151

<http://www.ritsumei.ac.jp/mng/er/wp-museum/index.html>